

KADERU (かでる)

2019
Vol. 2



釧路 鶴居村 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

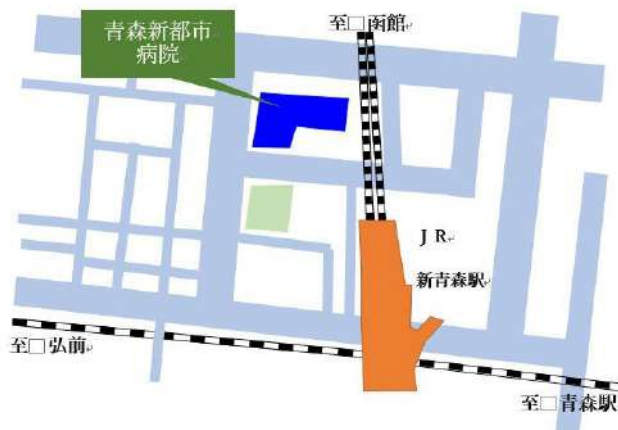
— Contents —

◆ 安心できる医療、病院へ

青森新都市病院 総長 片山 容一

◆ お知らせ

- 医療・健康セミナー
＜甲状腺がんってなんですか？＞
- 今月の標語
＜【待たせない】工夫をしよう＞
- 施設のご紹介
＜中野脳神経外科・総合内科クリニック＞
- 部署紹介 ＜リハビリテーション科＞
- 外来担当医表 ＜平成 31 年 1 月＞



〒038-0003 青森市石江 3 丁目 1 番地
医療法人 雄心会 青森新都市病院
[http:// aomorishintoshi-hp.yushinkai.jp/](http://aomorishintoshi-hp.yushinkai.jp/)

地域連携課 患者支援センター
直通：017-757-8785
FAX：017-788-9902

安心できる医療、病院へ

この地域での当院の役割は、皆さまの温かいご支援のおかげで、日々広がりを増してきています。誌面を借りて心から御礼を申し上げます。

当院は、病気の診断や治療だけでなく、病気の予防や健康の増進にも取り組み、この地域での「健康寿命の延伸」にも貢献したいと考えてきました。昨年末の国会では、「健康寿命の延伸などを図る為の脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が成立しました。健康とは、身体的にも、精神的にも、社会的にも、そのすべてが活気に満ちた状態のことです。この三つは、脳の働きをもとにして、相互に深く関連しています。ですから、「健康寿命の延伸」には、なによりも「脳卒中、心臓病その他の循環器病」から「脳を守る」ことが大切なのです。

当院は、「脳を守る」ための診療に大きな強みを持っています。特に脳卒中については、最先端の技術と機器を駆使して、いつでも迅速に診断と治療を進めることができる体制を整えています。また、こうした特徴を生かして、青森大学とともに「脳と健康科学研究センター」を開設しました。その目的は、「脳を守る」ことを通して「健康寿命の延伸」を図り、「健やかな超高齢社会」を形成することです。

昨年、「役に立つ病院」から「信頼される病院」に脱皮することを目標にしました。本年は、さらに一歩前に進めて「安心できる病院」になることを目標にしています。少しでも早く、皆さまから「安心できる病院」だと思っていただける日が来ることを願っています。



青森新都市病院 総長（事業管理者）
青森大学 脳と健康科学研究センター長 片山 容一

医療・健康セミナー

平成 30 年 12 月 3 日に第 5 回医療・健康セミナーを開催致しました。

今回のセミナーは当院の外科医長、高屋誠吾医師に「あなたの胆石、あなたの脱腸、腹腔鏡手術で治せます！」～放っておくとこんな危険が…～というテーマでご講演いただきました。



高屋医師は鳥取大学を卒業後、同大学の消化器外科に在籍し診療・研究に従事していました。その間、米子医学雑誌に掲載した論文の「ダブルバルーン内視鏡にて診断・点墨を行い単孔式腹腔鏡補助下に切除したメッケル憩室の 1 例」では優秀論文賞を受賞されています。

昨年の 3 月に故郷の青森に 18 年ぶりに帰郷され、当院の消化器外科科長に就任されました。

高屋医師は今回のテーマの腹腔鏡手術を得意としており、以前まで開腹手術で行っていた胆石、胃、大腸の手術などは開腹手術よりも傷が小さく済み、術後の痛みが少ない腹腔鏡手術を勧めております。

セミナーでは胆石、脱腸などの病気に対し、どのような施術をし、胆石などを放っておいた場合のリスクや、どんな合併症を引き起こすのかなどわかりやすく丁寧にお話しいただきました。

参加した方々のアンケートには

「胆石、脱腸ともにリスクの説明を受け、大変参考になりました。」

「胆のうの事がわかりやすく聞いて大変良かった。」

など感想が寄せられました。

今回もご参加いただいた多くの皆さま、ありがとうございました。



次回の医療・健康セミナーは

3月14日(木)16:30～17:30

乳腺・甲状腺外科、西隆医師による

「甲状腺がんってなんですか？」

～甲状腺がんの診断から治療まで～

を開催いたします。

多数のご参加をお待ちしています。

今月の標語

— 【待たせない】工夫をしよう —
つねに「つながり」を意識し顧客満足度の
・簡潔でわかりやすい申し送りをしていますか？
・患者さんを待たせっ放しにしていますか？
・優先順位をつけて作業していますか？

医療サービス推進委員会

施設のご紹介

中野脳神経外科・総合内科クリニック

当院は内科と脳神経外科の外来診療がメインですが、認知症にも力を入れております。認知症はご高齢の方が多いため様々な疾患を抱えており、精神面、身体面を含めトータルでサポートを行っていかねばと考えております。

新都市病院には患者さんの治療や検査等で大変お世話になっております。当院とは目と鼻の先どころか両目の間の距離ですので、ストレッチャーで道路を渡り患者さんを運んだこともあります。一方で重症患者を搬送する際にはこの数十メートルの距離を救急車で移動することもあり、救急隊員の皆さんは面食らっているのではないかと思います。いっそ地下トンネルで繋がると便利になるのにと勝手に想像したりしております。こうした医療連携の下地を作っておくれた事務局の皆様には感謝しております。また積極的に患者さんをお引き受けくださる医師の先生方、検査を担当して下さる技師の先生方や連携室、在宅スタッフの皆様等に紙面をお借りして御礼申し上げます。

これからもお世話になりますが、どうか末長くお付き合い頂けますようお願い申し上げます。



こちらこそ、
本年もご指導宜しくお願ひいたします。
m(_ _)m

病院長 中野高広
〒038-0003 青森県青森市石江 4-4-3
医療法人ルポアヴェール
中野脳神経外科・総合内科クリニック
電話 017(788)7200
FAX 017(788)7212

リハビリテーション科の紹介

当院は、急性期から回復期、退院後における生活期まで一貫したリハビリを提供しています。

▼急性期におけるリハビリ

集中治療室・急性期病棟において早期からの積極的なリハビリを行い、心身機能改善を図ります。

リハビリ専門医および主治医の指示のもと、安全に配慮した上で、患者様の身体機能回復と合併症の予防に努めます。

▼回復期におけるリハビリ

回復期とは、急性期治療のあとの心身の回復を図る時期のことです。

回復期リハビリ病棟では、1日最大3時間の個別リハビリを提供します。また、病棟生活そのものがリハビリとなり、着替えやトイレ動作など、実生活に即した日常生活動作の向上を目指します。

▼生活期におけるリハビリ

自宅で生活されている方に対し、当院のリハビリ

スタッフが訪問し、生活の場で病院で行っている機能訓練等の実践的なリハビリを提供します。

▼さらなる改善を求めるリハビリ

歩きやすさ、動きやすさには限界がありません。最先端技術を利用し、リハビリ専門チームで関わる短期入院（歩行入院・上肢機能回復訓練）を提供します。



青森新都市病院 外来担当医表 (平成31年1月)

※ 予約の際は、電話で診察日の調整をさせていただきますので、事前にご連絡をお願いいたします。

診療科		月	火	水	木	金	
脳神経外科	午前	太田 潔	福島 匡道◆ (8・22日) 前田 剛◆ (15・29日)	片山 容一★	梅森 勉	羽入 紀朋	◆日本大学 派遣医師 ★23日(水)午前 診察医が 片山容一医師から 太田潔医師に変更となります。
	午後	梅森 勉	福島 匡道◆ (8・22日) 前田 剛◆ (15・29日)	片山 容一★	羽入 紀朋	太田 潔	
形成外科	午前	中島 龍夫●	岩寄 大輔●	岩寄 大輔●	岩寄 大輔●	中島 龍夫●	●予約制
整形外科	午前	末綱 太●			末綱 太●	末綱 太●	●予約制
	午後	末綱 太●			末綱 太●	末綱 太●	
外科	外科・消化器外科	午前	高屋 誠吾		高屋 誠吾★		★30日(水) 休診
	乳腺・甲状腺外科	午前	西 隆●		西 隆●		●予約制
		午後	西 隆●		西 隆●		
	静脈瘤治療外来	午前				小西 宏明 (10・24・31日)	
午後					小西 宏明 (10・24・31日)		
内科	午前	三浦 心▲	三浦 心	工藤 茂昭	三浦 心	工藤 茂昭	●予約制 ▲新患優先 ◆岩手医科大 派遣医師
		工藤 茂昭	福島 彬裕		伊藤 智範◆ (24日)	福島 彬裕	
	午後	福島 彬裕 (受付15:30迄)	福島 彬裕 (受付15:30迄)	工藤 茂昭	三浦 心●	工藤 茂昭	
リハビリテーション科	午後				木下 翔司		
	特別	5日(土) 9:00 ~ 安保 雅博 ●◆					●予約制 ◆東京慈恵医科大学 派遣医師
放射線腫瘍科	午前		橋本 弥一郎◆ (8日)	橋本 弥一郎◆ (23日)	唐澤 久美子◆ (17・31日)		◆東京女子医大 派遣医師
	午後		橋本 弥一郎◆ (8日)	橋本 弥一郎◆ (23日)	唐澤 久美子◆ (17・31日)		
歯科	午前	柿崎 大和 (7・21日)		富樫 洋介	富樫 洋介	数坂 隆★	★4日(金)休診
	午後	柿崎 大和 (7・21日)		富樫 洋介	富樫 洋介 数坂 隆	数坂 隆★	



長期予報では暖冬と言われていましたが、大寒間近、立春が待たれる今日このごろです。病院の周りでは冬休みの終わった小学生の元気な声が聞こえ一人癒やされています。

巷ではインフルエンザやノロウイルス流行の兆しも見られます。私も昨年12月にインフルエンザAにかかりました。39.5度の高熱に苦しみ、改めて罹患の大変さを感じま

した。患者様、利用者様の健康を気にする立場にある我々も医療・福祉従事者ですので、個人の体調管理も大切です。

体調がいつもと違うと感じたら、無理せず早めの受診と自分の体と相談していきましょう。
(N.F.)

地域連携だより
「KADERU」

編集顧問 中島 龍夫
末綱 太
片山 容一